



学校だより

(夏休み号) 令和3年7月20日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

ミヤマクワガタとノコギリクワガタ ～ノコギリクワガタの戦法～

校長 白石 徳一郎

盛夏の候、皆様におかれましては、ますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。1学期を振り返りますと、新型コロナウイルス感染防止に努めながら、6年生の修学旅行は全員参加で無事に行うことができ、プールも一学年ずつの少人数で実施できました。51名の防犯ボランティアの方々をはじめとした地域の皆様に見守られ、PTA 役員の皆様をはじめとした保護者の皆様にご理解ご協力をいただき、無事に1学期を終えることができましたこと、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。夏休みはオリンピック色となると思いますが、皆様にとって思い出に残る夏休みとなりますよう、お祈り申し上げます。

さて、夏になるとカブトムシ等を飼育するお子様もいるかと思えます。家の近くでカブトムシを捕まえるのは、なかなか難しいと思えますが、買ったり、たくさん飼育している人にもらったりして飼い始めると、次の年には幼虫が生まれて、毎年、飼育できるようになります。飼育は簡単ですので、子どもの頃の思い出作りにはおすすめです。

クワガタとなると、まずはノコギリクワガタが格好いいので人気があると思えます。ミヤマクワガタになると、珍しいのでさらに人気があるかと思えます。何となく山奥にいるイメージで、ミヤマクワガタを見つけると嬉しい気持ちになった思い出があります。大型のミヤマクワガタは強そうに見えますが、実はノコギリクワガタと戦うと分が悪いそうです。

「カブトムシとクワガタの最新科学」本郷儀人著 によると、同じ餌場を争うミヤマクワガタとノコギリクワガタは戦うことが多いそうですが、京都の雑木林での調査によると、生息数でミヤマクワガタが減少しノコギリクワガタが増加しているそうです。その戦い方を見ると、ミヤマクワガタは相手の上から挟む「上手投げ」が得意技で、ノコギリクワガタとの戦いで勝ったミヤマクワガタの技は全て「上手投げ」だったそうです。一方、ノコギリクワガタは相手の上から挟む「上手投げ」と、相手の下から挟む「下手投げ」ができ、自分より大きなミヤマクワガタと戦う時には「下手投げ」を得意技としていることがわかったというのです。ミヤマクワガタは相手より体が小さいとほぼ勝つことができないのに対し、ノコギリクワガタはミヤマクワガタより小さくても勝てる可能性が十分にあるということが実証されたとのことでした。本郷さんの推論では、関西ではかつてミヤマクワガタが優占的な種であったが、ノコギリクワガタが生息域に入り込み、ノコギリクワガタが優位に立ち、ミヤマクワガタが減少しているのではないかということでした。

国内のクワガタで最大級の大きさを誇るミヤマクワガタですが、下手投げができないために数が減少しているのであれば残念ですね。技術の進歩が目ざましい現代においては、人間も新しい技術を学ばなければならないことを教えられているような感じがします。

夏休みは、できなかったことができるようになるといいですね。長い休みを有意義に過ごしてほしいと思います。2学期には元気な子どもたちに会えるのを楽しみにしています。

(参考文献 「カブトムシとクワガタの最新科学」本郷儀人著)